



Sun Cluster Data Service for Siebel ガイド (Solaris OS 版)

SPARC 版

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 817-6426-10
2004 年 4 月, Revision A

Copyright 2004 Sun Microsystems, Inc. 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

本製品およびそれに関連する文書は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および関連する文書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

Federal Acquisitions: Commercial Software—Government Users Subject to Standard License Terms and Conditions.

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PCGothicB-Sun は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、docs.sun.com、AnswerBook、AnswerBook2 は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします) の商標もしくは登録商標です。

サンのロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn6 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。© Copyright OMRON Co., Ltd. 1995-2000. All Rights Reserved. © Copyright OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2002 All Rights Reserved.

「ATOK」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK Server/ATOK12」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK Server/ATOK12」にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本製品に含まれる郵便番号辞書 (7 桁/5 桁) は郵政事業庁が公開したデータを元に制作された物です (一部データの加工を行なっています)。

本製品に含まれるフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド '98』に添付のものを使用しています。© 1997 ビレッジセンター

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

DiComboBox ウィジェットと DiSpinBox ウィジェットのプログラムおよびドキュメントは、Interleaf, Inc. から提供されたものです。(© 1993 Interleaf, Inc.)

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるかを問わない、なんらの保証も行われないものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法 (外為法) に定められる戦略物資等 (貨物または役務) に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典: *Sun Cluster Data Service for Siebel Guide for Solaris OS*

Part No: 817-4652-10

Revision A



040607@9061



目次

はじめに 5

Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成 9

Sun Cluster HA for Siebel の概要 9

Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成 10

Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成の計画 11

構成に関する制限事項 12

構成に関する要件 12

データサービスの標準構成 13

構成計画に関する質問 14

ノードとディスクの準備 15

▼ ノードを準備する 15

Siebel アプリケーションのインストールと構成 17

Siebel ゲートウェイのインストール 18

Siebel サーバーと Siebel データベースのインストール 20

Siebel のインストールと構成を確認する 22

▼ Siebel のインストールと構成を確認する 22

Sun Cluster HA for Siebel パッケージのインストール 23

▼ Web Start プログラムを使用して Sun Cluster HA for Siebel パッケージをインストールする 23

▼ scinstall ユーティリティを使用して、Sun Cluster HA for Siebel パッケージをインストールする 24

Sun Cluster HA for Siebel の登録と構成 25

Sun Cluster HA for Siebel 拡張プロパティ 25

▼ フェイルオーバーデータサービスとして Sun Cluster HA for Siebel を登録して構成する 26

▼ Siebel サーバーを登録して構成する	27
Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成の確認	28
▼ Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成を確認する	28
Sun Cluster HA for Siebel の保守	29
Sun Cluster HA for Siebel 障害モニターの概要	30
拡張プロパティ	30
検証アルゴリズムと機能	31
索引	33

はじめに

『*Sun Cluster Data Service for Siebel* ガイド (Solaris OS 版)』は、Sun™ Cluster HA for Siebel のインストールと構成方法について説明します。

このマニュアルは、Sun のソフトウェアとハードウェアについて幅広い知識を持っている上級システム管理者を対象としています。販売活動のガイドとしては使用しないでください。このマニュアルを読む前に、システムの必要条件を確認し、適切な装置とソフトウェアを購入しておく必要があります。

このマニュアルで説明されている作業手順を行うには、Solaris™ オペレーティングシステムに関する知識と、Sun Cluster と共に使用するボリューム管理ソフトウェアに関する専門知識が必要です。

UNIX コマンド

このマニュアルでは、Sun Cluster データサービスのインストールと構成に固有のコマンドについて説明します。このマニュアルでは、UNIX® の基本的なコマンドや手順 (システムの停止、システムのブート、デバイスの構成など) については扱いません。UNIX の基本的なコマンドや手順については、次の情報源を利用してください。

- Solaris オペレーティングシステムのオンラインドキュメント
- Solaris オペレーティングシステムのマニュアルページ
- システムに付属するその他のソフトウェアマニュアル

表記上の規則

このマニュアルでは、次のような字体や記号を特別な意味を持つものとして使用します。

表 P-1 表記上の規則

字体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例を示します。	.login ファイルを編集します。 ls -a を使用してすべてのファイルを表示します。 system%
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して示します。	system% su password:
<i>AaBbCc123</i>	変数を示します。実際に使用する特定の名前または値で置き換えます。	ファイルを削除するには、rm <i>filename</i> と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『コードマネージャ・ユーザーズガイド』を参照してください。
「 」	参照する章、節、ボタンやメニュー名、強調する単語を示します。	第 5 章「衝突の回避」を参照してください。 この操作ができるのは、「スーパーユーザー」だけです。
\	枠で囲まれたコード例で、テキストがページ行幅を超える場合に、継続を示します。	sun% grep \^#define \ XV_VERSION_STRING'

コード例は次のように表示されます。

■ C シェル

```
machine_name% command y|n [filename]
```

■ C シェルのスーパーユーザー

```
machine_name# command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェル

```
$ command y|n [filename]
```

■ Bourne シェルおよび Korn シェルのスーパーユーザー

```
# command y|n [filename]
```

[] は省略可能な項目を示します。上記の例は、*filename* は省略してもよいことを示しています。

| は区切り文字 (セパレータ) です。この文字で分割されている引数のうち 1 つだけを指定します。

キーボードのキー名は英文で、頭文字を大文字で示します (例: Shift キーを押します)。ただし、キーボードによっては Enter キーが Return キーの動作をします。

ダッシュ (-) は 2 つのキーを同時に押すことを示します。たとえば、Ctrl-D は Control キーを押したまま D キーを押すことを意味します。

関連マニュアル

Sun Cluster の関連トピックについては、次の表に記載したマニュアルを参照してください。Sun Cluster のすべてのマニュアルは、<http://docs.sun.com> で入手できます。

トピック	関連文書
データサービス管理	『 <i>Sun Cluster</i> データサービスの計画と管理 (Solaris OS 版)』 各データサービスのガイド
概念	『 <i>Sun Cluster</i> の概念 (Solaris OS 版)』
概要	『 <i>Sun Cluster</i> の概要 (Solaris OS 版)』
ソフトウェアのインストール	『 <i>Sun Cluster</i> ソフトウェアのインストール (Solaris OS 版)』
システム管理	『 <i>Sun Cluster</i> のシステム管理 (Solaris OS 版)』
ハードウェア管理	『 <i>Sun Cluster 3.x Hardware Administration Manual for Solaris OS</i> 』 各ハードウェア管理ガイド
データサービス開発	『 <i>Sun Cluster</i> データサービス開発ガイド (Solaris OS 版)』
エラーメッセージ:	『 <i>Sun Cluster Error Messages Guide for Solaris OS</i> 』
コマンドおよび機能のリファレンス	『 <i>Sun Cluster Reference Manual for Solaris OS</i> 』

Sun Cluster の完全なマニュアルリストについては、ご使用のリリースの Sun Cluster のリリースノート (<http://docs.sun.com>) を参照してください。

Sun のオンラインマニュアル

docs.sun.com では、Sun が提供しているオンラインマニュアルを参照することができます。マニュアルのタイトルや特定の主題などをキーワードとして、検索を行うこともできます。URL は、http://docs.sun.com です。

ヘルプ

Sun Cluster をインストールまたは使用しているときに問題が発生した場合は、ご購入先に連絡し、次の情報をお伝えください。

- 名前と電子メールアドレス (利用している場合)
- 会社名、住所、および電話番号
- ご使用のシステムのモデルとシリアル番号
- Solaris オペレーティングシステムのバージョン番号 (例: Solaris 8)
- Sun Cluster のバージョン番号 (例: Sun Cluster 3.0)

サービスプロバイダのために、次のコマンドを使用して、システム上の各ノードに関する情報を収集してください。

コマンド	機能
prtconf -v	システムメモリのサイズと周辺デバイス情報を表示します
psrinfo -v	プロセッサの情報を表示します
showrev -p	インストールされているパッチを報告します
SPARC: prtdiag -v	システム診断情報を表示します
scinstall -pv	Sun Cluster のリリースおよびパッケージのバージョン情報を表示します

上記の情報にあわせて、/var/adm/messages ファイルの内容もご購入先にお知らせください。

Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成

この章では、Sun Cluster HA for Siebel をインストールして構成する手順について説明します。

この章では、次の手順について説明します。

- 15 ページの「ノードを準備する」
- 18 ページの「広域ファイルシステムに Siebel ゲートウェイをインストールする」
- 18 ページの「物理ホストのローカルディスクに Siebel ゲートウェイをインストールする」
- 20 ページの「広域ファイルシステムに Siebel サーバーと Siebel データベースをインストールする」
- 21 ページの「物理ホストのローカルディスクに Siebel サーバーと Siebel データベースをインストールする」
- 22 ページの「Siebel のインストールと構成を確認する」
- 23 ページの「Web Start プログラムを使用して Sun Cluster HA for Siebel パッケージをインストールする」
- 24 ページの「scinstall ユーティリティを使用して、Sun Cluster HA for Siebel パッケージをインストールする」
- 26 ページの「フェイルオーバーデータサービスとして Sun Cluster HA for Siebel を登録して構成する」
- 27 ページの「Siebel サーバーを登録して構成する」
- 28 ページの「Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成を確認する」

Sun Cluster HA for Siebel の概要

ここでは、Siebel アプリケーションの可用性を向上させる方法について説明します。

Sun Cluster HA for Siebel は、Siebel アプリケーションに障害モニターと自動フェイルオーバー機能を提供します。高可用性は、Siebel ゲートウェイと Siebel サーバーに提供されます。Siebel システムでは、Sun Cluster エージェントが動作している物理ノードで Resonate エージェントも動作させることはできません。Resonate と Sun Cluster は、同じ Siebel エンタープライズ内で共存できますが、同じ物理サーバー上では共存できません。

フェイルオーバーサービスの概念については、『Sun Cluster の概念 (Solaris OS 版)』を参照してください。

表 1 Siebel コンポーネントの保護

Siebel コンポーネント	コンポーネントを保護するデータサービス
Siebel ゲートウェイ	Sun Cluster HA for Siebel リソースタイプは SUNW.sblgtwy です。
Siebel サーバー	Sun Cluster HA for Siebel リソースタイプは SUNW.sblsrvr です。

Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成

表 2 に、Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成に必要な作業を示します。指定された順番どおりに、各作業を行ってください。

表 2 Task Map: Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成

作業	参照先
Siebel のインストールの計画	11 ページの「Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成の計画」
ノードとディスクの準備	15 ページの「ノードを準備する」

表 2 Task Map: Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成 (続き)

作業	参照先
Siebel のインストールと構成	18 ページの「広域ファイルシステムに Siebel ゲートウェイをインストールする」 18 ページの「物理ホストのローカルディスクに Siebel ゲートウェイをインストールする」 20 ページの「広域ファイルシステムに Siebel サーバーと Siebel データベースをインストールする」 21 ページの「物理ホストのローカルディスクに Siebel サーバーと Siebel データベースをインストールする」
Siebel のインストールと構成の確認	22 ページの「Siebel のインストールと構成を確認する」
Sun Cluster HA for Siebel パッケージのインストール	23 ページの「Sun Cluster HA for Siebel パッケージのインストール」
フェイルオーバーデータサービスとしての Sun Cluster HA for Siebel の登録と構成	26 ページの「フェイルオーバーデータサービスとして Sun Cluster HA for Siebel を登録して構成する」 27 ページの「Siebel サーバーを登録して構成する」
Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成の確認	28 ページの「Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成を確認する」
Sun Cluster HA for Siebel の保守	29 ページの「Sun Cluster HA for Siebel の保守」
Sun Cluster HA for Siebel 障害モニターの概要	30 ページの「Sun Cluster HA for Siebel 障害モニターの概要」

Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成の計画

ここでは、Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成の計画について説明します。

構成に関する制限事項



注意 – これらの制限事項を守らないと、データサービスの構成がサポートされない場合があります。

ここで説明する制限事項を検討して、Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成の計画を行なってください。ここでは、Sun Cluster HA for Siebel に適用されるソフトウェアとハードウェア構成の制限事項を示します。

すべてのデータサービスに適用される制限事項については、ご使用のリリースの Sun Cluster のリリースノートを参照してください。

- 高可用性は、Siebel ゲートウェイと Siebel サーバーに提供されます。
- Siebel システムでは、Sun Cluster エージェントが動作している物理ノードで Resonate エージェントも動作させることはできません。Resonate と Sun Cluster は、同じ Siebel エンタープライズ内で共存できますが、同じ物理サーバー上では共存できません。
- Sun Cluster HA for Siebel を Sun Cluster HA for Sun Java System Web Server と組み合わせて使用する場合は、Sun Cluster HA for Sun Java System Web Server をフェイルオーバーデータサービスとして構成する必要があります。スケーラブル Sun Cluster HA for Sun Java System Web Server を Sun Cluster HA for Siebel と組み合わせて使用することはできません。

構成に関する要件



注意 – 次の要件を満たさないと、データサービスの構成がサポートされない場合があります。

ここで説明する要件を検討して、Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成の計画を行なってください。これらの要件が適用されるのは、Sun Cluster HA for Siebel だけです。Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成を始める前に、次の要件を満たしておく必要があります。

すべてのデータサービスに適用される要件については、『Sun Cluster データサービスの計画と管理 (Solaris OS 版)』の「Sun Cluster データサービス構成のガイドライン」を参照してください。

- 各 Siebel ゲートウェイと各 Siebel サーバーをそれぞれ専用の Siebel ルート環境 (インスタンスごとに専用の siebenv.sh ファイルをもつ) にインストールします。こうすると、各インスタンスが相互に独立するので、フェイルオーバーと問題の診断が容易になります。

- 複数の Siebel サーバーで Siebel ファイルシステムを使用する場合は、Siebel ファイルシステムを広域ファイルシステムにインストールします。こうすることによって、すべての Siebel サーバーリソースがどのクラスタノードからでも、同じファイルシステムにアクセスできるようになります。
- Autostart 機能は使用しないでください。Siebel ゲートウェイまたは Siebel サーバーのインストール時に、このパラメータの構成を求められたときには、**Autostart=NO** を指定します。

データサービスの標準構成

ここで説明する標準構成を使用して、Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成の計画を行なってください。Sun Cluster HA for Siebel は、ここで紹介する標準構成をサポートします。Sun Cluster HA for Siebel は、他の構成もサポートする場合があります。ただし、Sun サービスプロバイダに連絡し、他の構成に関する情報を得る必要があります。

図 1 に、Sun Cluster HA for Siebel を使用する構成を示します。Siebel サーバーと Siebel ゲートウェイはフェイルオーバーデータサービスとして構成されています。

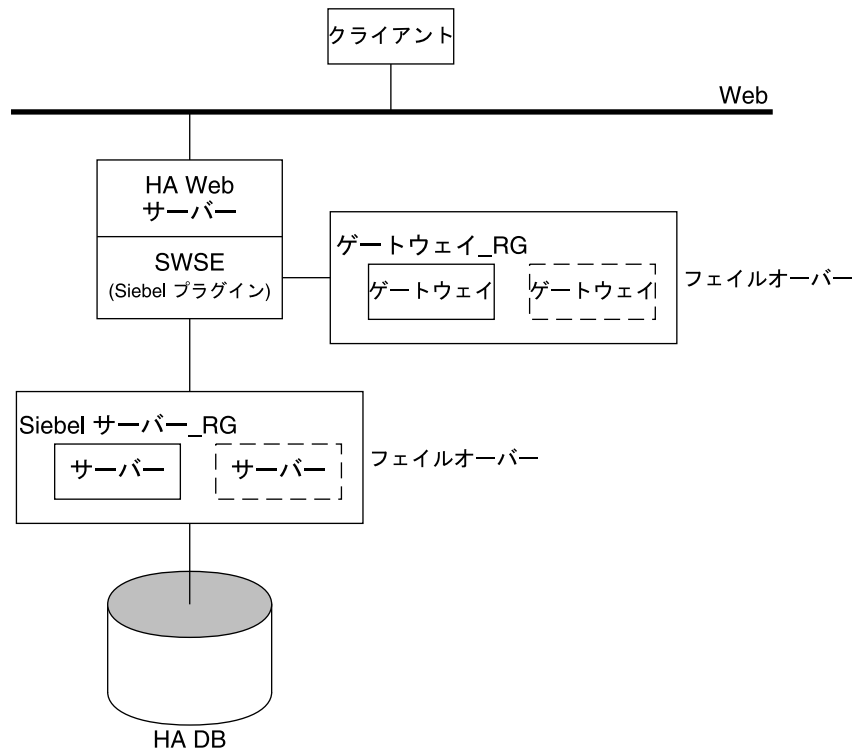


図 1 Siebel の標準構成

構成計画に関する質問

ここで示す質問に基づいて、Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成の計画を行なってください。『Sun Cluster データサービスの計画と管理 (Solaris OS 版)』の「データサービス構成のワークシートと記入例」にあるデータサービスワークシートに、質問の答えを記入してください。

- 次のリソースの論理ホスト名は何ですか。 Siebel ゲートウェイと Siebel サーバー
- システム構成ファイルはどこに置きますか。

クラスタファイルシステムではなく、ローカルファイルシステム上に Siebel バイナリを置いておくメリットとデメリットについては、『Sun Cluster データサービスの計画と管理 (Solaris OS 版)』の「Sun Cluster データサービスの構成のガイドライン」を参照してください。

ノードとディスクの準備

ここでは、ノードとディスクを準備する手順について説明します。

▼ ノードを準備する

次の手順で、Siebel をインストールして構成するための準備を行います。

1. すべてのノードでスーパーユーザーになります。
2. 切り替え、またはフェイルオーバーの発生時に **Sun Cluster HA for Siebel** が正しく起動したり停止するように、**/etc/nsswitch.conf** ファイルを構成します。
Sun Cluster HA for Siebel が動作する論理ホストをマスターできる各ノードで、次の group エントリのどれかを **/etc/nsswitch.conf** ファイルに指定します。

```
group:  
group: files [NOTFOUND=return] nis  
group: files [NOTFOUND=return] nisplus
```

Sun Cluster HA for Siebel では `su - user` コマンドを使用して、サービスの起動、停止、検証を行います。

クラスタノードのパブリックネットワークに障害が発生すると、ネットワーク情報ネームサービスが使用不能になることがあります。group に上のどれかのエントリが追加されていると、`su(1M)` コマンドは、NIS/NIS+ ネームサービスが使用不能であれば、そのネットワーク情報ネームサービスを参照しません。

3. **Siebel** ゲートウェイの検証機能が、**/home** 上のファイルを開こうとしているときにタイムアウトしないようにします。

Siebel ゲートウェイが動作しているノードに、NFS または NIS といったネットワークリソースに依存する **/home** から始まるパスが設定されているときに、パブリックネットワークで障害が発生すると、Siebel ゲートウェイの検証機能がタイムアウトして、Siebel ゲートウェイリソースがオフラインになってしまいます。パブリックネットワークを利用できないと、Siebel ゲートウェイの検証機能は **/home** 上のファイルを開こうとしてハングアップし、検証機能がタイムアウトします。

/home 上のファイルを開こうとしているときに、Siebel ゲートウェイの検証機能がタイムアウトしないようにするには、Siebel ゲートウェイになりえるすべてのクラスタノードを次のように構成します。

- a. 次のエントリを **/etc/nsswitch.conf** ファイルの **files** に設定して組み込みます。

```
passwd: files  
groups: files  
publickey: files
```

```
project: files
```

- b. **/home** から始まるパスに関して、**NFS** または **NIS** へのあらゆる依存関係を排除します。

この場合、**/home** パスをローカルにマウントすることも、**/home** マウントポイントを **/export/home** または **/home** から始まらない別の名前に変更することもできます。

- c. **/etc/auto_master** ファイルで **+auto_master** の含まれる行をコメントアウトして、**/home** エントリがあればすべて **auto_home** に変更します。
- d. **/etc/auto_home** ファイルで **+auto_home** の含まれる行をコメントアウトします。

- 4. **Siebel** 管理者のホームディレクトリを準備します。
- 5. 各ノードで、データベース管理者グループのエントリを **/etc/group** ファイルに作成し、グループへの登録が必要なユーザーをグループに追加します。

ヒント – 次の例では、**Siebel** 管理者グループの名前は **siebel** です。

グループ ID が **Sun Cluster HA for Siebel** を実行するすべてのノードで同じであることを確認します。

```
# siebel:*:521:siebel
```

グループエントリをネットワークネームサービスに作成することができます。その場合には、ネットワークネームサービスに依存するのを避けるために、これらのエントリをローカルの **/etc/inet/hosts** ファイルにも追加します。

- 6. 各ノードで、**Siebel** 管理者のエントリを作成します。

ヒント – 次の例では、**Siebel** 管理者名は **siebel** です。

次のコマンドでは、**/etc/passwd** と **/etc/shadow** ファイルを **Siebel** 管理者のエントリで更新します。

```
# useradd -u 121 -g siebel -s /bin/ksh -d /Siebel-home siebel
```

Siebel ユーザーエントリが **Sun Cluster HA for Siebel** の動作するすべてのノードで同じであることを確認します。

- 7. **Siebel** 管理者のデフォルトの環境に **Siebel** データベースにアクセスするための設定値が含まれていることを確認します。たとえば、**Siebel** データベースが **Oracle** 上にある場合、**.profile** ファイルに指定されている可能性のあるエントリは、次のとおりです。


```
export ORACLE_HOME=/global/oracle/OraHome
export PATH=$PATH:$ORACLE_HOME/bin
export LD_LIBRARY_PATH=$ORACLE_HOME/lib:/usr/lib

export TNS_ADMIN=$ORACLE_HOME/network/admin
export ORACLE_SID=siebedb
```

8. 論理ホスト名と **Siebel** ゲートウェイリソースを維持するフェイルオーバーリソースグループを作成します。

```
# scrgadm -a -g failover-rg [-h nodelist]
```

9. 論理ホスト名リソースを追加します。

論理ホスト名は、Siebel ゲートウェイと Siebel サーバーの siebenv.sh ファイルで設定された SIEBEL_GATEWAY 環境変数の値と一致していなければなりません。

```
# scrgadm -a -L -g failover-rg -l logical_hostname
```

10. リソースグループをオンラインにします。

```
# scswitch -Z -g failover-rg
```

11. 必要な論理ホスト名ごとに、手順 8 から手順 10 を繰り返します。

Siebel アプリケーションのインストールと構成

ここでは Siebel アプリケーションをインストールして構成する手順について説明します。Siebel アプリケーションをインストールするには、Siebel ゲートウェイ、Siebel サーバー、および Siebel データベースをインストールする必要があります。

Siebel アプリケーションをインストールするには、構成に関して次の情報が必要です。

- ゲートウェイとサーバーのルートディレクトリ (インストール先)
 - Siebel ゲートウェイと Siebel サーバーの論理ホスト名 (別々にフェイルオーバーさせる場合は、Siebel サーバーインスタンスごとに 1 つずつの論理ホスト名)
- これらのアドレスを構成し、オンラインにしなければなりません。

以下、Siebel アプリケーションのインストール手順について説明します。

- 18 ページの「Siebel ゲートウェイのインストール」
- 20 ページの「Siebel サーバーと Siebel データベースのインストール」

Siebel ゲートウェイのインストール

Siebel ゲートウェイは、広域ファイルシステムまたは物理ホストのローカルディスクのどちらにでもインストールできます。次のどちらか一方の手順で、Siebel ゲートウェイをインストールします。

- 18 ページの「広域ファイルシステムに Siebel ゲートウェイをインストールする」
- 18 ページの「物理ホストのローカルディスクに Siebel ゲートウェイをインストールする」

▼ 広域ファイルシステムに Siebel ゲートウェイをインストールする

次の手順で、Siebel ゲートウェイを広域ファイルシステムにインストールします。物理ホストのローカルディスクに Siebel ゲートウェイをインストールする場合は、18 ページの「物理ホストのローカルディスクに Siebel ゲートウェイをインストールする」を参照してください。

広域ファイルシステムに Siebel ゲートウェイをインストールする場合は、クラスタの任意のノードから 1 回だけ Siebel ソフトウェアをインストールします。

1. **Siebel** のインストールマニュアルと最新のリリースノートに記載されている手順で、**Siebel** ゲートウェイをインストールします。
Autostart 機能は使用しないでください。プロンプトに対して、**Autostart=NO** を指定します。
2. **siebenv.sh** ファイルが *gateway_root* の下にあり、**Siebel** ゲートウェイを起動するユーザーによって所有されていることを確認します。
3. *gateway_root* の下の **siebenv.sh** ファイルと **siebenv.csh** ファイルで、**Siebel** ゲートウェイ用に選択した論理ホスト名に **SIEBEL_GATEWAY** を変更します。
4. **Siebel** ゲートウェイを停止してから再起動し、ゲートウェイがその論理ホスト名を使用していることを確認します。

▼ 物理ホストのローカルディスクに Siebel ゲートウェイをインストールする

次の手順で、Siebel ゲートウェイを物理ホストのローカルディスクにインストールします。広域ファイルシステムに Siebel ゲートウェイをインストールする場合は、18 ページの「広域ファイルシステムに Siebel ゲートウェイをインストールする」を参照してください。

注 – 物理ホストのローカルディスクに Siebel ゲートウェイをインストールする場合は、ディレクトリ `gateway_root/sys` の可用性を高くしておく (広域ファイルシステムにインストールする) 必要があります。

1. **Siebel** のインストールマニュアルと最新のリリースノートに記載されている手順で、いずれか 1 つのクラスタノードに **Siebel** ゲートウェイをインストールします。

Autostart 機能は使用しないでください。プロンプトに対して、**Autostart=NO** を指定します。

2. **siebench.sh** ファイルが `gateway_root` の下にあり、**Siebel** ゲートウェイを起動するユーザーによって所有されていることを確認します。
3. `gateway_root` の下の **siebench.sh** ファイルと **siebench.csh** ファイルで、ゲートウェイ用に選択した論理ホスト名に **SIEBEL_GATEWAY** を変更します。
4. **Siebel** ゲートウェイを停止してから再起動し、ゲートウェイがその論理ホスト名を使用していることを確認します。
5. `gateway_root/sys` を `/global/siebel/sys` に移し、ローカルファイルシステムから広域ファイルシステムへのリンクを作成します。

```
# mv gateway_root/sys /global/siebel/sys
# ln -s /global/siebel/sys gateway_root/sys
```

6. 残りのすべてのクラスタノードでインストールを複製します。

```
# rdist -c gateway_root hostname:gateway_root
```

7. **Siebel** ゲートウェイのファイルとディレクトリに関して、所有権とアクセス権がすべてのクラスノードで同じであることを確認します。
8. クラスノードごとに、リンクの所有権を適切な **Siebel** ユーザーに変更します。

```
# chown -h siebel:siebel gateway_root/sys
```

9. **Siebel** ユーザーとして、ゲートウェイが正しくインストールされて構成されているかどうかを確認します。次のコマンドでバージョンを示した文字列が戻されることを確認します。

```
# srvredit -q -g SIEBEL_GATEWAY -e none -z -c '$Gateway.VersionString'
```

Siebel サーバーと Siebel データベースのインストール

Siebel サーバーは、広域ファイルシステムまたは物理ホストのローカルディスクのどちらにでもインストールできます。次のどちらか一方の手順で、Siebel サーバーをインストールして、Siebel サーバーと Siebel データベースを構成します。

- 20 ページの「広域ファイルシステムに Siebel サーバーと Siebel データベースをインストールする」
- 21 ページの「物理ホストのローカルディスクに Siebel サーバーと Siebel データベースをインストールする」

▼ 広域ファイルシステムに Siebel サーバーと Siebel データベースをインストールする

次の手順で、広域ファイルシステムに Siebel サーバーをインストールして、Siebel サーバーと Siebel データベースを構成します。物理ホストのローカルディスクに Siebel サーバーをインストールする場合は、21 ページの「物理ホストのローカルディスクに Siebel サーバーと Siebel データベースをインストールする」を参照してください。

広域ファイルシステムに Siebel サーバーをインストールする場合は、クラスタの任意のノードから 1 回だけソフトウェアをインストールします。

1. **Siebel** のインストールマニュアルと最新のリリースノートに記載されている手順で、**Siebel** サーバーをインストールします。
Autostart 機能は使用しないでください。プロンプトに対して、**Autostart=No** を指定します。
ゲートウェイのホスト名を入力するように指示されたなら、Siebel ゲートウェイの論理ホスト名を入力します。
2. **siebenv.sh** ファイルが *server_root* の下にあり、**Siebel** サーバーを起動するユーザーによって所有されていることを確認します。
3. **HA Oracle** などのデータベースが **Siebel** に合わせて設定されていて、なおかつデータベースがオンラインになっていることを確認します。
4. **Siebel** のマニュアルを参照し、**Siebel** データベースを構成して入力します。
ODBC データソースを作成する場合 (*dbsrvr_config.ksh* スクリプトを使用)、名前を *siebsrvr_siebel_enterprise* にする必要があります。
5. **Sun Cluster HA for Siebel** 障害モニター用の **Siebel** データベースに接続する権限を指定して、データベースユーザー (例: **dbuser/dbpassword**) を作成します。
6. **Siebel** サーバーを起動するユーザーとしてログインし、**Siebel** サーバーを手動で起動します。

7. **srvrmgr** を実行し、**HOST** パラメータを **Siebel** サーバーに対応する論理ホスト名に変更します。

```
# srvrmgr:hasiebel> change param Host=logical-hostname for server hasiebel
```

注 – この変更は、Sun Cluster の制御下で Siebel サーバーが起動すると有効になります。

▼ 物理ホストのローカルディスクに Siebel サーバーと Siebel データベースをインストールする

次の手順で、物理ホストのローカルディスクに Siebel サーバーをインストールして、Siebel サーバーと Siebel データベースを構成します。広域ファイルシステムに Siebel サーバーをインストールする場合は、20 ページの「広域ファイルシステムに Siebel サーバーと Siebel データベースをインストールする」を参照してください。

物理ホストのローカルディスクに Siebel サーバーをインストールする場合は、いずれか 1 つのクラスタノードにソフトウェアをインストールします。

1. **Siebel** のインストールマニュアルと最新のリリースノートに記載されている手順で、**Siebel** サーバーをインストールします。
Autostart 機能は使用しないでください。プロンプトに対して、**Autostart=No** を指定します。
ゲートウェイのホスト名を入力するように指示されたなら、Siebel ゲートウェイの論理ホスト名を入力します。
2. **siebenv.sh** ファイルが *server_root* の下にあり、**Siebel** サーバーを起動するユーザーによって所有されていることを確認します。
3. **HA Oracle** などのデータベースが **Siebel** に合わせて設定されていて、なおかつデータベースがオンラインになっていることを確認します。
4. **Siebel** のマニュアルを参照し、**Siebel** データベースを構成して入力します。
ODBC データソースを作成する場合 (*dbsrvr_config.ksh* スクリプトを使用)、名前を *siebsrvr_siebel_enterprise* にする必要があります。
5. **Sun Cluster HA for Siebel** 障害モニター用の **Siebel** データベースに接続する権限を指定して、データベースユーザー (例: **dbuser/dbpassword**) を作成します。
6. **Siebel** サーバーを起動するユーザーとしてログインし、**Siebel** サーバーを手動で起動します。
7. **srvrmgr** を実行し、**HOST** パラメータを **Siebel** サーバーに対応する論理ホスト名に変更します。

```
srvrmgr:hasiebel> change param Host=logical-hostname for server hasiebel
```

注 – この変更は、Sun Cluster の制御下で Siebel サーバーが起動すると有効になります。

8. 残りのすべてのクラスターノードでインストールを複製します。

```
# rdist -c server_root hostname:server_root
```

9. **Siebel** ゲートウェイのファイルとディレクトリに関して、所有権とアクセス権がすべてのクラスターノードで同じであることを確認します。

Siebel のインストールと構成を確認する

ここでは、Siebel のインストールと構成を確認する手順について説明します。

▼ Siebel のインストールと構成を確認する

次の手順で Siebel ゲートウェイ、Siebel サーバー、および Siebel データベースのインストールと構成を確認します。データサービスをまだインストールしていないため、この手順ではアプリケーションの可用性が高いかどうかを確認することはできません。

1. リソース (複数可) をオンラインにする予定のノード上で、論理ホスト名がオンラインになっていることを確認します。
2. **Siebel** ゲートウェイを起動するユーザーとして、**Siebel** ゲートウェイを手動で起動します。
3. **Siebel** サーバーを起動するユーザーとして、**Siebel** サーバーを手動で起動します。
4. **odbcsql** を使用して、**Siebel** データベースに接続できるかどうかを確認します。

```
# odbcsql /s siebsrvr_siebel_enterprise /u dbuser /p dbpassword
```

5. **srvrmgr** の **list servers** サブコマンドを実行します。

Siebel サーバーの **HOST_NAME** パラメータとして、物理ホスト名が表示されます。可用性が高くなるように Siebel サーバーを構成すると、**HOST_NAME** に Siebel サーバーの論理ホスト名が表示されます。

6. **Siebel** の専用クライアントとサポート対象の **thin** クライアント (ブラウザ) を使用して、販売、コールセンターなどの各種 **Siebel** ユーザーセッションをテストします。

7. **Siebel** サーバーを起動したユーザーとして、**Siebel** サーバーを手動で停止します。
8. **Siebel** ゲートウェイを起動したユーザーとして、**Siebel** ゲートウェイを手動で停止します。

Sun Cluster HA for Siebel パッケージのインストール

最初に Sun Cluster をインストールするときに、Sun Cluster HA for Siebel パッケージをインストールしなかった場合は、この手順でパッケージをインストールしてください。Sun Cluster HA for Siebel パッケージをインストールする各クラスタノードで、この手順を実行します。この手順を実行するには、Sun Java Enterprise System Accessory CD Volume 3 が必要です。

複数のデータサービスを同時にインストールする場合は、『*Sun Cluster ソフトウェアのインストール (Solaris OS 版)*』の「ソフトウェアのインストール」に記載されている手順を実行してください。

Sun Cluster HA for Siebel パッケージは、次のどちらかのインストールツールを使用してインストールします。

- Web Start プログラム
- `scinstall` ユーティリティ

注 – Web Start プログラムは、Sun Cluster 3.1 データサービス 10/03 より前のリリースでは利用できません。

▼ Web Start プログラムを使用して Sun Cluster HA for Siebel パッケージをインストールする

Web Start プログラムは、コマンド行インタフェース (CLI) またはグラフィカルユーザーインタフェース (GUI) のどちらでも実行できます。作業の内容と順序は、CLI でも GUI でも同様です。Web Start プログラムの詳細は、`installer(1M)` のマニュアルページを参照してください。

1. **Sun Cluster HA for Siebel** パッケージをインストールするクラスタノードで、スーパーユーザーになります。
2. (省略可能) GUI を使用して **Web Start** プログラムを実行する場合は、**DISPLAY** 環境変数を設定しておく必要があります。

3. **CD-ROM** ドライブに **Sun Java Enterprise System Accessory CD Volume 3** を読み込みます。
ボリューム管理デーモン `vold(1M)` が実行され、CD-ROM デバイスを管理するように構成されている場合、CD-ROM は `/cdrom/cdrom0` ディレクトリに自動的にマウントされます。
4. **CD-ROM** の **Sun Cluster HA for Siebel** コンポーネントディレクトリに切り替えます。
Sun Cluster HA for Siebel データサービス用の Web Start プログラムはこのディレクトリにあります。

```
# cd /cdrom/cdrom0 /\ncomponents/SunCluster_HA_Siebel_3.1/
```
5. **Web Start** プログラムを起動します。

```
# ./installer
```
6. プロンプトに対して、インストールのタイプを選択します。
 - C ロケールだけをインストールする場合は、Typical を選択します。
 - その他のロケールをインストールする場合は、Custom を選択します。
7. 表示される手順に従って、ノードに **Sun Cluster HA for Siebel** パッケージをインストールします。
インストールの完了後、Web Start プログラムはインストールのサマリを出力します。このサマリによって、インストール中に Web Start プログラムが作成したログを表示できます。これらのログは、`/var/sadm/install/logs` ディレクトリにあります。
8. **Web Start** プログラムを終了します。
9. **CD-ROM** ドライブから **Sun Java Enterprise System Accessory CD Volume 3** を読み取り解除します。
 - a. **CD-ROM** が使用されないように、**CD-ROM** 上には存在しないディレクトリに切り替えます。
 - b. **CD-ROM** を取り出します。

```
# eject cdrom
```

▼ `scinstall` ユーティリティを使用して、Sun Cluster HA for Siebel パッケージをインストールする

1. **CD-ROM** ドライブに **Sun Java Enterprise System Accessory CD Volume 3** を読み込みます。

2. オプションは指定せずに、**scinstall** ユーティリティーを実行します。
scinstall ユーティリティーが対話型モードで起動します。
3. メニューオプション「新しいデータサービスのサポートをこのクラスタノードに追加」を選択します。
scinstall ユーティリティーにより、ほかの情報を入力するためのプロンプトが表示されます。
4. **Sun Java Enterprise System Accessory CD Volume 3** のパスを指定します。
ユーティリティーはこの CD-ROM をデータサービス CD-ROM として示します。
5. インストールするデータサービスを指定します。
選択したデータサービスが scinstall ユーティリティーによって示され、この選択内容の確認が求められます。
6. **scinstall** ユーティリティーを終了します。
7. ドライブから **CD-ROM** を取り出します。

Sun Cluster HA for Siebel の登録と構成

ここでは Sun Cluster HA for Siebel の構成手順について説明します。

Sun Cluster HA for Siebel 拡張プロパティ

表 3 と表 4 の拡張プロパティを使用して、リソースを作成します。 コマンド `scrgadm -x parameter-value` を使用して、リソースを作成するときに拡張プロパティを構成します。 リソースが作成済みの場合は、『*Sun Cluster データサービスの計画と管理 (Solaris OS 版)*』の「データサービスリソースの管理」で説明している手順に従って、拡張プロパティを構成します。 拡張プロパティの中には動的に変更できるものがあります。 それ以外の拡張プロパティは、リソースを作成するか無効にするときにしか更新できません。 そのプロパティをいつ変更できるかについては、説明欄の「調整:」を参照してください。 Sun Cluster のすべてのプロパティの詳細については、『*Sun Cluster データサービスの計画と管理 (Solaris OS 版)*』の「標準プロパティ」を参照してください。

▼ フェイルオーバーデータサービスとして Sun Cluster HA for Siebel を登録して構成する

次の手順で、フェイルオーバーデータサービスとして Sun Cluster HA for Siebel を構成します。この手順では、データサービスパッケージはインストール済みであると想定しています。Sun Cluster HA for Siebel パッケージがインストールされていない場合は、23 ページの「Sun Cluster HA for Siebel パッケージのインストール」を参照してパッケージをインストールします。それ以外の場合は、ここで説明する手順で、Sun Cluster HA for Siebel を構成します。

1. アプリケーションサーバーを格納するクラスタノードの 1 つでスーパーユーザーになります。

2. Siebel ゲートウェイのリソースタイプを追加します。

```
# scrgadm -a -t SUNW.sblgtwy
```

3. 論理ホスト名と Siebel ゲートウェイリソースを維持するフェイルオーバーリソースグループを作成します。

注 - リソースグループが作成済みの場合は、15 ページの「ノードを準備する」の手順を完了した時点で、論理ホスト名リソースを追加してリソースグループをオンラインにし、手順 6 に進みます。

```
# scrgadm -a -g gateway-rg [-h nodelist]
```

4. 論理ホスト名リソースを追加します。

論理ホスト名は、Siebel ゲートウェイと Siebel サーバーの `siebenv.sh` ファイルで設定された `SIEBEL_GATEWAY` 環境変数の値と一致していなければなりません。

```
# scrgadm -a -L -g gateway-rg -l logical_hostname
```

5. リソースグループをオンラインにします。

```
# scswitch -Z -g gateway-rg
```

6. `siebenv.sh` ファイルが `gateway_root` の下にあるかどうかを確認します。

Siebel リソースがオンラインになると、このファイルの所有者が Siebel ゲートウェイサーバーを起動します。

7. Siebel ゲートウェイリソースを作成します。

```
# scrgadm -a -j sblgtwy-rs -g gateway-rg \  
-t SUNW.sblgtwy \  
-x Confdir_list=gateway_root
```

8. Siebel ゲートウェイリソースを有効にします。

```
# scswitch -e -j sblgtwy-rs
```

9. **scstat -g** と **ps -ef** を使用して、**Siebel** リソースグループと **Siebel** ゲートウェイリソースがオンラインかどうかを確認します。

▼ Siebel サーバーを登録して構成する

1. **Siebel** サーバーのリソースタイプを追加します。

```
# scrgadm -a -t SUNW.sblsrvr
```

2. 論理ホスト名と **Siebel** サーバーリソースを維持するフェイルオーバーリソースグループを作成します。

注 - リソースグループが作成済みの場合は、15 ページの「ノードを準備する」の手順を完了した時点で、論理ホスト名リソースを追加してリソースグループをオンラインにし、手順 5 に進みます。

```
# scrgadm -a -g siebel-rg [-h nodelist]
```

3. 論理ホスト名リソースを追加します。

この論理ホスト名は、**Siebel** サーバーに対応する **HOST_NAME** パラメータの値と一致させます。

```
# scrgadm -a -L -g siebel-rg -l logical-hostname
```

4. リソースグループをオンラインにします。

次のコマンドを使用して、優先ノードでリソースグループをオンラインにします。

```
# scswitch -Z -g siebel-rg
```

5. **siebenv.sh** ファイルが **server_root** の下にあるかどうかを確認します。

6. **siebenv.sh** の所有者が所有する **scsblconfig** というファイルを **server_root** の下に作成します。

Siebel サーバーをローカルにインストールしている場合は、すべてのノードで、ファイル **scsblconfig** を **server_root** の下に作成します。

セキュリティ上の理由から、所有者だけがこのファイルを読めるようにします。

```
# cd server_root
# touch scsblconfig
# chown siebel:siebel scsblconfig
# chmod 400 scsblconfig
```

7. **Sun Cluster HA for Siebel** 障害モニター用のデータベースに接続する権限を指定して、データベースユーザー (例: **dbuser/dbuserpassword**) を選択します。

8. **svrmgr** で **compgrps** コマンドを実行する権限を指定して、別の Siebel ユーザー (例: **sadmin/sadminpassword**) を選択します。

9. 次のエントリを **scsblconfig** ファイルに追加します。

```
export DBUSR=dbuser
export DBPWD=dbuserpassword
export SADMUSR=sadmin
export SADMPWD=sadminpassword
```

10. Siebel サーバーリソースを作成します。

```
# scrgadm -a -j sbbsrvr-rs -g siebel-rg \
-t SUNW.sbbsrvr \
-x Confdir_list=server_root \
-x siebel_enterprise=siebel enterprise name \
-x siebel_server=siebel server name
```



注意 - **siebel_enterprise** または **siebel_server** に誤った値を入力しても、妥当性検査時にエラーは発生しません。しかし、リソースの起動は失敗します。**siebel_enterprise** が誤っていると、**validate** メソッドはデータベースが接続可能かどうかを検証できず、警告だけが生成されます。

11. Siebel サーバーリソースを有効にします。

```
# scswitch -e -j sbbsrvr-rs
```

12. **scstat -g** コマンドと **ps -ef** コマンドを使用して、リソースグループと Siebel サーバーリソースがオンラインかどうかを確認します。

Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成の確認

ここでは、データサービスが正しくインストールされ構成されているかどうかを確認する手順について説明します。

▼ Sun Cluster HA for Siebel のインストールと構成を確認する

次の手順で、Sun Cluster HA for Siebel が正しくインストールされ、構成されているかどうかを確認します。

1. クラスタ上で **Siebel** データベースリソース、**Siebel** ゲートウェイリソース、および **Siebel** サーバーリソースをオンラインにします。
2. **Siebel** サーバーがオンラインのノードにログオンします。
3. 障害モニターが正常に機能していることを確認します。
4. **svrmgr** を起動し、サブコマンド **list compgrps** を実行します。
5. 必要な **Siebel** コンポーネントが有効になっているかどうかを確認します。
6. サポート対象の **thin** クライアント (ブラウザ) を使用して **Siebel** に接続し、セッションを実行します。
7. ユーザー **root** として、**Siebel** リソースグループを別のノードに切り替えます。

```
# scswitch -z -g siebel-rg -h node2
```
8. **Siebel** サーバーリソースが動作する可能性のある各ノードで、手順 4、手順 5、および手順 6 を繰り返します。
9. ユーザー **root** として、**Siebel** ゲートウェイリソースグループを別のノードに切り替えます。

```
# scswitch -z -g gateway-rg -h node2
```

Sun Cluster HA for Siebel の保守

ここでは Sun Cluster HA for Siebel の保守についての指針を示します。

- Siebel リソースを保守する場合は、Siebel リソース (複数可) を無効にするか、または次のコマンドの 1 つを使用して、Siebel リソースグループ (複数可) を非管理状態にします。
 - `scswitch -j resource`
 - `scswitch -g resource_group`
- Siebel リソースを起動する場合は、リソースを無効にして、なおかつ論理ホスト名をオンラインにしたまま、Siebel リソースを手動で起動します。



注意 - リソースを無効にしたり、リソースグループを非管理状態にすることなく、Siebel サーバーを手動で起動すると、Sun Cluster の制御下でリソースの起動を試行したノード上のサービスを Siebel リソース起動メソッドが「リセット」してしまう可能性があります。これは予想外の結果を引き起こします。

Sun Cluster HA for Siebel 障害モニターの概要

この情報は、Sun Cluster HA for Siebel の障害モニターを理解するうえで役立ちます。

この節では、次の内容について説明します。

- Sun Cluster HA for Siebel 障害モニターの検証アルゴリズムまたは機能
- 検証エラーに関連する条件、メッセージ、および回復アクション
- 正常に完了した検証に関連する条件およびメッセージ

Sun Cluster HA for Siebel は、ゲートウェイ障害モニターとサーバー障害モニターという、2 種類の障害モニターを提供します。以下、それぞれの障害モニターについて説明します。

拡張プロパティ

Sun Cluster HA for Siebel の障害モニターでは、次の拡張プロパティを使用します。次の拡張プロパティを調整できます。拡張プロパティを検討または設定する場合は、25 ページの「Sun Cluster HA for Siebel 拡張プロパティ」を参照してください。

表 3 Sun Cluster HA for Siebel (SUNW.sblgtwy) の拡張プロパティ

名前/データタイプ	説明
Confdir_list (stringarray)	Siebel ゲートウェイルートディレクトリの場所 デフォルト: なし 調整: 作成時

表 4 Sun Cluster HA for Siebel SUNW.sblsrvr の拡張プロパティ

名前/データタイプ	説明
Confdir_list (stringarray)	Siebel サーバールートディレクトリの場所 デフォルト: なし 調整: 作成時

表 4 Sun Cluster HA for Siebel SUNW.sblsrvr の拡張プロパティ (続き)

名前/データタイプ	説明
siebel_enterprise (string)	Siebel エンタープライズの名前 デフォルト:なし 調整:作成時
siebel_serves (string)	Siebel サーバー名 デフォルト:なし 調整:作成時

検証アルゴリズムと機能

Siebel ゲートウェイの障害モニター

Siebel ゲートウェイの障害モニターは、Siebel ゲートウェイのプロセスを監視します。Siebel ゲートウェイプロセスが停止すると、障害モニターがそのプロセスを再起動するか、または別のノードにフェイルオーバーします。

Siebel サーバーの障害モニター

Siebel サーバーの障害モニターは、thorough_probe_interval (秒数) の間隔で次の動作を実行します。

Siebel データベースを監視する

Siebel データベースで障害が発生すると、Siebel サーバーの状態が DEGRADED に設定されます。Siebel データベースが改めて再起動したときに、Siebel サーバーリソースの検証機能が Siebel サーバーが動作しているかどうかを調べようとします。このテストに失敗すると、Siebel サーバーは再起動するか、または別のノードにフェイルオーバーされます。

障害モニターはさらに、START メソッドの実行時に利用できなかった Siebel データベースが利用できるようになった時点で、Siebel サーバーを起動します。

Siebel ゲートウェイを監視する

Siebel ゲートウェイで障害が発生すると、Siebel サーバーの状態が DEGRADED に設定されます。Siebel ゲートウェイが改めて再起動したときに、Siebel サーバーリソースの検証機能が Siebel サーバーが動作しているかどうかを調べようとします。このテストに失敗すると、Siebel サーバーは再起動するか、または別のノードにフェイルオーバーされます。

障害モニターはさらに、START メソッドの実行時に利用できなかった Siebel ゲートウェイが利用できるようになった時点で、Siebel サーバーを起動します。

Siebel サーバーと有効なすべてのコンポーネントを監視する

Siebel サーバーで障害が発生すると、サーバーは再起動するか、または別のノードにフェイルオーバーされます。Siebel コンポーネントのどれかで障害が発生すると、フレームワークに部分障害 (10%) が報告されます。現在、コンポーネント障害を検出できるのは、英語版の Siebel をインストールした場合だけです。

索引

C

Confdir_list の拡張プロパティ, 30
C ロケール, 24

P

prtconf -v コマンド, 8
prtdiag -v コマンド, 8
psrinfo -v コマンド, 8

S

scinstall -pv コマンド, 8
showrev -p コマンド, 8
Siebel
 「Sun Cluster HA for Siebel」も参照
 インストール
 Siebel ゲートウェイ, 18
 Siebel サーバーと Siebel データベース, 20
 広域ファイルシステムへのインストール, 18, 20
 実行, 17
 ノードの準備, 15
 物理ホストのローカルディスクへのインストール, 18, 21
 インストールの確認, 22
 siebel_enterprise の拡張プロパティ, 31
 siebel_serves の拡張プロパティ, 31
 Sun Cluster HA for Siebel
 「Siebel」も参照
 Siebel コンポーネントの保護, 10

Sun Cluster HA for Siebel (続き)

SUNW.sblgtwy の拡張プロパティ, 30
SUNW.sblsrvr の拡張プロパティ, 30
インストール
 scinstall ユーティリティを使って, 24
 Web Start プログラムの使用, 23
 計画, 11
インストールの確認, 28
概要, 9
構成
 計画, 11, 14
 標準, 13
 要件, 12
作業マップ, 10
障害モニター, 30
登録と構成, 26
 Siebel サーバー, 27
保守, 29

V

/var/sadm/install/logs ディレクトリ, 24

W

Web Start プログラム, 23

い

インストール

- Siebel, 17
- Siebel ゲートウェイ, 18
 - 広域ファイルシステム, 18
 - 物理ホストのローカルディスク, 18
- Siebel サーバーと Siebel データベース, 20
 - 広域ファイルシステム, 20
 - 物理ホストのローカルディスク, 21
- Sun Cluster HA for Siebel
 - scinstall ユーティリティを使って, 24
 - Web Start プログラムの使用, 23
 - 作成ログファイル, 24

か

- 概要, Sun Cluster HA for Siebel, 9
- 拡張プロパティ, 30
- 確認
 - Siebel のインストール, 22
 - Sun Cluster HA for Siebel, 28

こ

構成

- Sun Cluster HA for Siebel, 26
 - Siebel サーバー, 27
- コマンド, ノード情報, 8

さ

- 作業マップ, Sun Cluster HA for Siebel, 10

し

- 障害モニター, Sun Cluster HA for Siebel, 30

て

- ディレクトリ,
 - /var/sadm/install/logs, 24

と

登録

- Sun Cluster HA for Siebel, 26, 27

ふ

- ファイル, インストールログ, 24

ほ

- 保守, Sun Cluster HA for Siebel, 29

ろ

- ログファイル, インストール, 24
- ロケール, 24